

2022年度 トコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2023/9/27

団体名	NPO法人 Accept International	活動タイトル	非行少年の社会定着、包括支援事業		
<p align="center">望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>		<p align="center">■ 活動風景</p>			
<p>●地域の望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>当法人が実現したいビジョンは「非行少年が、再犯をせず新たな人生に向けて希望をもって歩んでいける社会」です。 現在の日本社会では、一度複雑な背景から犯罪行為に及んだ少年が、再犯を繰り返せざるを得ない構造があります。彼らの多くは、20歳以下の未来ある若者です。彼らのやり直しを受容し、可能性が奪はれる社会を築くことは社会全体の重要な課題です。 当法人は、一度犯罪に走ってしまった少年少女に加え、犯罪につながる恐れのある少年少女に対し、相談支援を行います。彼らの困りごとを把握し、話をしながら彼ら自身が目標を持って歩んでいけるよう、支援を行います。</p>		<p>少年に対し、通院同行や公的機関、ハローワーク等への同行等も実施</p>		
<p>●団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>当法人の社会的役割は、「非行少年がどんな問題を抱えていても相談できる駆け込み寺として常に存在する」ことです。具体的には、以下のような取り組みを推進します。 ①非行少年が、自ら抱える問題を相談できるよう、信頼できる大人として認知してもらう ②非行少年がと彼らを支援する団体の橋渡しとなり、非行少年が抱える問題の解決を図る ③他団体に紹介した後も定期的にコンタクトを取り続け、伴走支援をおこなう。</p>				
<p>●団体の活動基盤</p>	<p>●望ましい人的資源： 支援の質の向上および担保のために、少年の相談対応や適切な支援先への紹介に適当な能力（非行少年とのコミュニケーションスキル等）を持ったスタッフが複数名在籍していること。 活動範囲を広げ、相談窓口の紹介のために夜回り等を実施し、街頭で対象となる少年少女にアウトリーチを行える人材が複数名在籍していること。 LINEや電話での相談に対応できる人材が複数名在籍していること。</p> <p>●望ましい物的資源： 一人でも多く支援を必要としている少年少女、ご家族とつながるため、夜回りでの配布物や関係機関と協働のための事業紹介のパンフレットを運用できる状態。 相談に来た少年少女が必要な支援につながる事ができること。</p> <p>●望ましい活動資金： 自己資金だけでなく、助成金などを活用して、活動基盤を構築するだけの資金の担保。</p> <p>●望ましい情報： 少年と繋がるために、どこに対象の少年がいるのか、アウトリーチ上のような声掛け・関わり方が適切なかが実践を行った上でノウハウが蓄積されている状態。また、汎用化できるためのマニュアルがあり、継続的に活用されている。</p>				
<p align="center">■ 活動報告</p>		<p align="center">■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>			
<p>①少年少女に対する社会定着支援事業 助成期間で、25名の少年少女に社会定着のための相談支援を実施した。 6箇所の矯正施設から依頼を受け、1都3県の保護観察所と連携をし支援を提供。弁護士から依頼を受けたケースもあった。</p> <p>②非行をする恐れのある少年少女への夜回り活動 歌舞伎町で声かけ活動を実施。のべ770名に声をかけ、相談窓口の紹介を行った。カロリーメイトや冷感スプレー等、物品と一緒に配布した。</p> <p>③家族や身元引受人などの支援者に対する包括的支援 29名のご家族や雇用主・支援団体と密にコミュニケーションを取り、協力関係を構築した。</p> <p>④人材育成と定期的な事業評価 ボランティアスタッフに対し、ケース検討やボランティア後のフィードバック等を実施し、人材育成を行った。また、四半期に一度、事業評価を実施した。</p>	<p>①少年少女に対する社会定着支援事業 支援している少年のうち、2名は連絡が取れなくなったが、その他の少年は困った時に連絡が来たり、継続的に連絡を取り面談をすることができている。 希死念慮が強かった少年と関わり、半年の支援期間を経て自傷行為がなくなり生活が安定した。仕事を始めた、塾に通い始めた少年もいる。</p> <p>②非行をする恐れのある少年少女への夜回り活動 毎週定期的に通うことで、団体のことを覚えてくれている少年も増えてきており、最近の様子を聞いたり悩みを話してくれる等、コミュニケーションを取ることができている。実際に1件、相談に繋がった。</p> <p>③家族や身元引受人などの支援者に対する包括的支援 少年のケースに合わせて、ご家族や雇用主、支援団体と連携をし、支援を協働することができた。当事業の介入により拒否が強かった連携先と本人の関係性が良くなった等、少年の孤立を防ぐことができたケースもあった。</p> <p>④人材育成と定期的な事業評価 リスクマネジメントや個人情報の取り扱い、少年とのコミュニケーションの助言等、こまめな打ち合わせを実施している。ボランティアスタッフから支援についての意見や改善案が出たりと関心・意欲が向上した。ボランティアスタッフと少年についても、良好な関係を構築することができている。</p>		<p>歌舞伎町で声掛け活動の際に配布している相談窓口カードと物品</p>		
<p align="center">■ 事業を通じて得られたノウハウ</p>		<p align="center">■ 望ましい社会状況を達成するための課題</p>		<p align="center">■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>	
<p>・関わっている少年少女の多くは、知的障がい・精神障がい、グレーゾーン、虐待経験やいじめ等、さまざまな生きづらさを抱えている。児童養護施設や児童相談所の一時保護等を利用していた子どもたちも多いが、そこでうまく馴染めず、支援や大人に拒否があるケースも多い。当事業では、社会福祉士や精神保健福祉士の有資格者が相談支援を担当しているが、“福祉的”な側面と“非行・犯罪”の側面、どちらかに偏ることなく、両方を理解して支援をすることが重要である。 ・批判はな受け入れの姿勢こそが関係性構築の重要な基盤を創るということを再認識した。彼らの多くは、少年院や保護観察所の指導を受ける中で、これまでの自分の行動に対する意識に変化は見られるものの、さまざまな刺激のなかで自己を統制する力、意志を継続し行動する力が養われていない場合が多い。そのため、不良交友に戻ったり犯罪を繰り返してしまう状況にある。失敗しては反省をし、前向きな行動を起こすことを繰り返しながら、徐々に生活が安定していくため、一つ一つの状況や行動を批判するだけの関わりではなく、なぜそのような行動になったのか、どのような気持ちになったのか等、彼らの考えや思いを汲み取り、本音を話すことのできる心理的安全性を担保することが重要である。その上で、課題を言語化し整理していくことで、彼ら自身が課題に向かい、自立する力を養うことができると考える。</p>		<p>・繁華街での夜回り活動を実施し、繁華街に通う若者の困り感のなさが見えてきた。実際に声掛け活動をするなかで、継続的にコミュニケーションを取ることができた少年もいたが、実際の相談には繋がらないことが多かった。提供できる支援をより分かりやすく伝えることや、より支援が必要な子どもたちにアプローチするための手法を検討する必要がある。 ・既存の支援は、福祉的支援、更生保護領域における支援が分断されていることが多く、それぞれのノウハウや社会資源等が活かされていない現状がある。一時的な状況だけに捉われることなく、根本の課題を見極め支援する必要があり、彼らを支えるそれぞれの関係機関の協働が必要不可欠である。少年の抱える生きづらさや、コミュニケーションの課題、非行をせずに定着していくまでの過程等、当事業を通じて得たノウハウや支援の方法について、ご家族や雇用主、支援窓口等、関係機関に共有しチームとしての機能を高めるためっていくことが重要である。</p>		<p>この1年間の活動を通して</p>	<p>関係機関との連携を強化し、少年・ご家族等、50名以上に支援を提供しました。</p>
				<p align="center">■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</p> <p>関係性構築に数ヶ月の期間を要する場合もあるが、関係性の構築ができると、彼らから困りごとについてSOSを出すようになり、徐々に課題の解決に向き合っていくことができた。具体的には、ホームレスから他団体に接続し、生活を立て直したケース、希死念慮が強かった少年が半年の支援を経て自傷行為、自殺未遂がなくなった、就労就学をしたケースがある。また、支援者（家族や雇用主、他機関）と本人の間に入ることで、支援者への連絡や面談等の拒否がなくなった、支援状況が良くなったケースが半数ほどあった。</p>	